

熊本商業高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校目標
 県教育委員会関係課から出されている「令和3年度教育指導の重点及び取り組みの方向」を基本に、本校の校訓「礼節」・「剛健」及び「反省十訓」を踏まえ、徳・知・体の調和の取れた全人教育をめざすとともに、これまでの本校教育の伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の目標
 ○豊かな人間性と健全な心身の育成
 校訓である「礼節」・「剛健」を重んじ、他者を思いやる豊かな人権感覚を身に付けるとともに、校内外における集団生活のルールやマナーを体得した規範意識の高い生徒の育成に努める。
 ○学力の向上と進路指導の充実
 確固とした進路目標を持ち、その実現のために自ら進んで学び学習する態度を育成し、学力向上に努めるとともに、個々に対応した進路指導の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。
 ○地域社会の期待に応える特色ある学校づくり
 特別活動を奨励し、部活動等に積極的に取り組む姿勢を育成し、学校の活性化に努めるとともに、学校周辺の環境清掃活動やボランティア活動に積極的に参加する姿勢の育成に努める。
 ○生徒を「伸ばす」教育活動の実践
 熊本県の教職員像「認め、ほめ、励まし、伸ばす」にある「伸ばす」に力点を置き、教職員のスキルアップ、充実した学校組織の体制づくりを行い、教育活動の実践に努める。
 【教育スローガン】
 「日本一の商業高校へ ～志高く、恕と信頼の人づくり～」

3 自己総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の教育目標 日々の教育活動 (教育スローガン) の達成に努める。	運営委員会、各種行事において学校の諸活動の状況を確認する。	教科指導を中心に、生徒指導、進路指導等、学校の諸活動の工夫・改善を図り、教育目標を達成する。	各分掌が掲げる具体的目標の達成に向けた取り組み状況を確認し、必要に応じて指導助言を行う。	B	校長の学校経営方針である、生徒を「伸ばす」教育活動の実践が、各分掌で推進されている。また、生徒の学習面や生活指導面の現状分析をすることで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通認識を更に深めていく必要がある。
		「志」を高く持ち、他を思いやる「恕」の心と人と人をつなぐ「信頼」の心を持つ人材を育成する。	特別活動、部活動を含めた教育活動の全ての領域で「日本一の商業高校」の実現を図る。	規範意識の醸成と心の教育の推進を図るため、挨拶運動の徹底と「熊商人物傳」を活用し恕の精神を涵養する。	A	生徒の自己肯定感を高めることや恕の心の育成を図るため、挨拶の徹底、心の教育等、職員一丸となった教育活動が推進できている。特に生徒の校門一礼やさわやかな挨拶の励行は、来校者から高い評価を受けている。学年集会や放送による全体指導、またストレス対処教育等を通じて心の教育の推進を継続する必要がある。
	熊本県の商業高校の拠点校としての指導的役割を果たす。	全領域で学校活性化に向けた取組や組織の検証を行い、改善を図る。	キャリア教育の充実と商業高校としての専門性の深化を図る。学科のあり方や教育課程の検証に取り組む。	将来のスペシャリストの育成を図り、進路目標(就職・進学)達成に向けた指導の改善・充実に積極的に取り組む。	A	商業高校の拠点校としてコロナ禍におけるWebの活用法について、各学校に情報を発信、教材の提供など拠点校としての役割を果たした。また、高校生の到達目標を超えた資格取得指導を通じてスペシャリストの育成ができた。
業務改善、働き方改革の視点から校務分掌、学校行事等を見直す。	・職員に業務の効率化を意識させる。 ・職員に勤務時間・健康管理を意識した働き方を意識させる。	・行事の2週間前までには学年連絡会に提案できるように促し、各分掌の業務の効率化を図る。 ・部活動指導による時間外勤務の削減。	・各分掌間の連携 ・ファイル名のコード化 ・行事の精選 ・部活動指導の交代制を促進 ・部活動方針の周知と遵守	B	教育活動全般でコロナ禍を念頭に置き行事の精選や効率化を図った。また教育活動全般において効率化を意識して取り組むことができた。特にフォームズを活用したアンケートは、業務の効率化を図ることができた。毎月の衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導につなげるなど勤務時間の削減をできるように工夫した。ただし、部活動に係る活動方針の順守をお願いしたが、大会直前の勤務時間の改善に課題が残った。	

	学校・保護者・地域社会等の連携とその充実を図る。	創立126年目を迎え、教育目標達成のための思いを新たに、学校の教育活動全般について更に情報発信するとともに、保護者・地域社会の理解と協力を得て、学校の活性化に繋げる。	様々な情報手段を活用して、学校の活動を積極的に発信していくとともに、学校教育及び商業教育の活性化の方策を探る。	HPの更新、報道機関への資料提供、学校安心安全メール等での情報提供を促進する。また、育友会とのより良い協力態勢づくりに努める。	A	学校行事や生徒の活躍等の情報発信をHPの更新を随時実施した。また安心・安全メールを活用して随時情報を発信し、保護者との連携を図ることができた。熊商デパートや商品開発を通じた地域連携、各教科における高大・高専・高幼連携をするなど、商業教育の高度化と教育の活性化を図った。コロナ渦で学校行事が縮小する中、育友会の皆様にご支援をいただき、本校教育についてご理解いただく良い機会となった。
学力向上	学力の充実を図る。	各人の学習目標を明確にさせ、予習復習の徹底を図り、家庭学習時間の確保を促す。	学習意欲を高め、学習の習慣化を図り、達成感を持つことができるよう促す。	定期的な生活時間活用調査を実施し、時間の大切さを自覚させると同時に有効かつ効果的な学習方法を身に付けさせる。	B	休校期間中の学習の範囲や進め方、そして学習状況について、学校のHPや安心安全メール以外にも、生徒や家庭にタイムリーに伝達したり、把握したりできる環境整備が必要であった。教科によってはオンラインで実施していた。遠方から登校している生徒にも少ない時間で学習に取り組みめるよう、タブレット等の活用も取り入れたい。
		「黙学」の有効活用を図る。	8:35までに入室・着席し、1日のスタートにふさわしい、ゆとりある学校生活を送れるように心身を落ち着かせる。	適切な課題(新聞スクラップ、検定・小論文対策等)を課すとともに、着席指導を行うことで、主体的に学習する意欲を高める。	A	遅刻する生徒が少なく、時間の管理や心身を落ち着かせる意味でも貴重な時間である。副担任や学年担当の職員が早めに教室に出向き、指導を行っているため、落ち着いて取り組むことができています。
	授業内容の充実を図る。	言語活動の充実を進めながら、生徒の学習意欲を高める授業を実施する。	公開授業を軸に教科内・外の研修を深める。特に、教科会を充実させ、担当者間の連携・連絡を密にし、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善に努める。また、タブレットを活用した授業を多く取り入れ、教師の授業準備の効率化を図るとともに、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を確立する。	分かる授業確立のため、学期1回以上の研究授業体制を整備し、各教科年間3回以上の研究授業を実施。更に教科の垣根を超えた公開授業を実施し、主体的かつ対話的な深い学び等の教授方法を研究する。タブレットを活用した授業実践の職員研修を実施し、教師間に差が出ないよう情報交換を行い、共通理	A	各教科で学期に1回の研究授業と10月に公開授業を実施した。プロジェクターが新規に導入されたため、ICTを活用した授業が積極的に行われた。また、FORMSを活用した生徒による授業評価を行い、担当教員に評価結果を示すことで、各教科で授業の工夫と改善が図られた。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	生徒に進路決定と将来の目標を見出させる指導を行う。	生徒一人ひとりが社会における自己の役割を認識し、自己の能力や適性、可能性に気づき、生涯の人生を見通した中で進路について考えるよう促す。	進路LHRや集団進路指導において、社会の情勢や人間としての在り方や生き方を踏まえた幅広い情報を提供し、自己の将来像から逆算的に進路について考えるよう啓発に努める。	A	学年ごとにテーマを設けてLHRの時間に集団進路指導を実施し、効果的な進路意識の高揚や情報提供を実施できた。進路学習後に、自己を見つめ将来について真剣に考える態度を継続できるような日常の支援も今後充実させたい。
		学習をはじめとする諸活動の「意味」を、将来とのつながりの中で理解させる指導を行う。	各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感できるような指導に努める。	生涯に渡る生活で、今の学びがどのように生きてくるのかを意識した授業展開・活動づくりに努めるとともに、教師一人ひとりが人間としての在り方生き方を踏まえた学習活動の意味を丁寧に語り、伝える。卒業生を囲む会や合格者体験談を聞く会を通して、学びの継続性や将来の可能性について啓発を図る。	A	社会の課題に自らがどのようにかかわり、社会参加や自己実現を果たしていくかを念頭に置いた学習指導を初めとした教育活動を展開できた。例えば、熊本学園大学との高大連携事業は、生徒の学ぶ意欲を刺激し、自己の進路を深く考える良い機会になった。今後も生徒の主体的な学びを喚起する取組を積極的に実施したい。

	生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	生徒の能力・適性を把握した適切な支援により、進路目標の実現を図る。	生徒一人ひとりの進路決定までの過程を大切にし、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	・「面談力」を高め、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くため、意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・生徒一人ひとりの「キャリアジレンマ」に丁寧に対応し、必要な情報提供や支援を行う。 ・各試験対策として進学課外、就職課外、公務員課外を実施する。	A	個々の生徒の進路目標の設定から達成までのプロセスに適切な支援ができるように、小論文研修会の実施を通じて全職員で指導力向上に努めた。キャリアサポーターとの連携による企業情報の提供、目標達成のための学力向上を進路別に丁寧に指導した。その結果、就職希望者は就職内定率100%を達成した。また、進学希望者も目標値に対して9割程度達成した。今後、共通テスト等を利用した受験者数を増やすことが目標達成に必要な方策である。
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。 個に応じた多様な指導支援に努める。	・時間厳守を徹底する。 ・校則を遵守する。 ・情報モラル教育の充実を図る。 ・配慮を要する生徒の確実な把握。	・黙学と運動させながら、遅刻者数の減少を図る。 ・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。 ・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。	A	熊商生としての自覚の上に順法精神を身に付けることができた。携帯電話の使用については、企画した全体指導に加えて、全職員による時機を見た指導を行っているが、一層のマナー・モラル指導が必要である。
		交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	・自転車運転マナーを徹底する。 ・自転車の二重ロックを徹底する。	・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。	B	命を守るために重点的に指導を継続したが、負傷を伴う事故が発生した。交通安全については、多面的に意識の高揚を図りたい。
人権教育の推進	内面的生徒指導の充実を図る。	不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、教育相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図る。 ・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。 ・「命を大切に作る心」を育む指導プログラムの取組を通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。	・マナー・モラル教育を実施する。 ・全校集会時において、思いやりの心がいかに大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。 ・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を聞き出す。 ・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「怒」の心を育成する。 ・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、黙学等、組織的系統的に各取組を実施する。	B	相手を傷つける不適切な言動は、指導の成果で減少した。しかし、なにげない言葉に思い悩んだ生徒は少なくなかった。そのような生徒に担任は、教育相談部やカウンセラーと協力して該当生徒の心の健康回復に努めた。さらに、人権教育とも連携して、学級ごとに努力目標を掲げて人権意識の高揚にも努めた。
		校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	・風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。	・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。 ・育友会との連携を図る。	A	ほとんどの生徒が校門一礼を実践している。生徒の愛校心は、校内の美化等の日常生活の随所に体现されている。
人権教育の推進	生徒も教師も「差別は許さない、見過ごさない」人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	生徒人権委員会の活動を活性化させるとともに、人権・同和教育推進委員会の機能も活性化させ、学校総体で人権教育に取り組む。	・不合理な差別に気付き、指摘できる力を付ける。 ・生徒同士、職員間における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をゼロにする。	・啓発活動(朝の放送、生徒人権委員会、人権・同和教育推進委員会、メッセージボード、資料提供など)を継続的に行う。 ・特に職員の言葉かけのスキルを高める。	A	「心のきずなを深める月間」において生徒全員に標語を作成、校内への周知、クラスで掲示することで生徒同士の仲間づくり意識を啓発できた。「心のきずな…」期間後も掲示をするクラスもあった。職員の生徒への言葉や行動、態度について研修をし、生徒の人権を尊重した指導の啓発をした。
		人権教育を計画的に行うとともに、進路の保障に努める。	3年間を通じた人権教育を展開する。授業の創造(分かりやすい授業づくり)に各教科で取り組む。	・身近な人権課題への認識と過去の差別の現実深く学ぶ。 ・言語教育とコミュニケーションを中心とした、生徒が楽しく学ぶ環境をつくる。	・被差別当事者の思いに寄り添うことができるようにする。 ・研修会の開催・参加を図るとともに、資料提供による知識の更新や蓄積を図る。	B

いじめの防止等	命を大切にすることを育む指導	3年間の人権教育を通して講師の方の生き方やさまざまな人権課題から差別とたたかう人間の素晴らしさや個々の尊厳を学ぶ	・当事者の話を聞きくことや教材等から学ぶことで人権課題に関わる人々の生き方の尊さを学ぶ。 ・他者を思いやり、自己の尊厳も大切にすることを育む。	・効果的な人権教育を企画、実行する ・生徒感想、職員感想を集約し、より効果的な方策を検討する	B	新型コロナウイルス感染症拡大のために講師の話を聴く機会が少なくなったが、動画やDVD教材の活用で効果的な人権教育ができた。
	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にすることを育てる。	・いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、教育相談部、保健部等と連携し組織的な対応を行う。 ・家庭との連携を深める。	・本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。	B	アンケート調査、面談週間を計画的に実施し、全職員で生徒を見守り、いじめを見逃さないように取組んでいる。いじめ防止対策委員会等において情報共有ができ、職員間でも連携を図りながら迅速な対応ができています。更にSCや専門家の助言を頂きながら指導していきたい。
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。	C	新型コロナウイルス感染症拡大のために学校行事が制限される中で、生徒の主体的な活動ができていくことができた。いじめ撲滅の意識を高揚させる取り組みを継続していきたい。
	いじめだけではなく、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「怒」の心を育てる。	学年部と保健部・教育相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。	教育相談部会において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、学年連絡会を通して周知することで、組織的な対応を図る。	A	保健室(保健部)、教育相談部、学年会、スクールカウンセラー及び管理職との連絡体制が円滑に機能し情報共有ができた。課題を抱えている生徒への対応を継続している。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の推進と地域連携豊かな人間性と健全な心身の育成を図る。	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む。本校の伝統を継承しながら、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	・想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。 ・「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。 ・学校行事として実施する、販売実習を充実させる。 ・地域の商店街の活性化を題材とした研究を進める。 ・幼稚園実習の内容を充実させる。 ・「避難所協力」において、熊本県、熊本市、地域の自治会との連携する。	・年2回の避難訓練の実施 ・防災マニュアルの更新 ・水前寺公園商店街の活性化について地域の連携を深める。 ・神水幼稚園における実習について、連携を深めることにより充実を図る。 ・校内組織編成による避難所運営への協力体制を構築する。	B	・防災避難訓練については、シェイクアウトと図面上での避難経路確認は実施できたが、実際の避難脱出は新型コロナウイルス感染防止の観点から見送った。次年度は学年毎に時差をつくって避難するなどの工夫をして実現させたい。 ・幼稚園実習については、今年度は見学実習の代わりに園長先生からの講演会を実施した。講話を通して幼児教育の重要性や親の役割などについて理解を深めることができた。 ・今年度もコロナ禍で地域活性化のイベントは実施できなかったが、生徒は企画書づくりを通して、自分たちが決めたことが形になる喜びを感じることができた。校外学習については引率体制や商店街の休日などの課題があり、今後の検討課題である。
商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	ビジネスの理解力・実践力を評価する方法として、資格取得に向けた指導を強化する。	生徒が主体的に資格取得について目標を立てることができるよう導き、その達成を目指す。	・生徒個々の学力に応じた指導や授業内容の充実、改善、主体的かつ対話的な深い学び等を取り入れた魅力ある授業実践を図るため、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業等を実施する。 ・課外等の補完的授業を通して、生徒の基礎的・基本的な学力が確実に定着するよう指導する。	B	魅力ある授業実践、授業力向上の為、研究授業だけでなく、GIGAスクール構想に対応した活用研修や、新教育課程評価に向けての職員研修を年間を通して計画的に行った。充足したITC機器を利活用し、商業教育における基礎的・基本的な知識と技術の習得を図るためにも職員側のスキルアップは急務である。生徒や保護者、企業からの要望が高い資格取得に向けて今後も引き続き取り組んでいく。

<p>ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ公正に行う能力を育てる。</p>	<p>求められる3つの資質（人間関係能力・社会性・倫理観）を伸長する。</p>	<p>・授業で学んだ専門的知識・技術を試す実践の場を設け、総合的な人間力、資質の向上を図る。 ・体験的な学習を通してビジネスマナーを身に付けさせるとともに、定着指導に努める。</p>	<p>・販売実習である「熊商デパート」への取組みを通して、ビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図る。また、今年度からSTEAM教育の学習要素を取り入れ、デザイン思考で「コロナ禍における熊商デパート」として顧客満足の観点をもとに熊商デパートを演出する。 ・事前の指導や企業研修を通して、ビジネスマナーの必要性について理解させるなど、定着指導を行う。 ・情報モラルについても、情報処理の授業を中心に涵養を図る。</p>	<p>A 34回目を迎えた熊商デパートについては、今年度も新型コロナウイルス感染症の関係で保護者や学校関係者に限定しての開催となった。そのような中、今年度はSTEAM教育の学習要素を取り入れ、顧客満足の視点から売り場を中庭にも拡充するなど、次のステージの熊商デパートを演出することができた。事前事後の学習をとおり、体験的にビジネスに対する姿勢やマナーを深める良い機会となった。将来のビジネス社会を支える人材になるため、情報の取り扱いにも心配りができるよう継続的に取り組んでいきたい。</p>
	<p>ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。</p>	<p>ビジネス活動に対するグローバルな視点や企画力・表現力を育成する。</p>	<p>・「課題研究」や「商品開発」、「電子商取引」などの学習を通して広い視野を育て、企画力・表現力の向上を図り、ビジネス諸活動の主体的構成員としての資質や能力を育成する。 ・高大連携プログラムやベンチャーマーケットなどを活用した専門性の深化により、将来のスペシャリストの育成を図る。</p>	<p>A 「課題研究」においては、今年度から新しくクラウドファンディングの学習も取り入れ、情報発信力や企画力を高める機会となった。また、「商品開発」「電子商取引」においても、実際の企業様に協力をいただき、熊本の食をweb発信することができた。今後も、高大連携プログラムや実践的な授業をとおり継続的な取組ができるよう、組織的な対応を心がけたい。</p>

※評価A～Cについては、A・・・達成できた、B・・・概ね達成できている、C・・・課題が残る、を基準に評価した。

4 学校関係者評価

【学校経営】

- 学校長の明確な経営方針のもと、各分掌で教育活動が実践されていることが伝わってきました。挨拶など大切な社会性を身につけさせることを大切にされる貴校の取組に感銘を受けました。
- 業務の効率化を図ることは、生徒教育の時間的な余裕にも繋がると思います。多くの考え方や視点を伝えて、商業人の育成にご尽力頂きたいと思えます。
- コロナ禍で、様々な工夫をされ、教育目標達成に努力されておられると思いました。
- 具体的な目標とその方策、そして評価の観点がセットで示されていて、大変参考になりました。それぞれが現代に必要な力であり、とてもわかりやすく、共有することが出来ました。
- 商業高校でありながら、多方面への進路を考え可能性を見いだせる学校経営がなされていると思います。
- 業務改善・働き方改革について、学校として力を入れ取り組まれていると感じます。全体を一括して改善・改革することは難しいと思いますので、引き続き職員の皆さま一人一人に着目され、ワークライフバランスを意識した働き方をすすめていただきたいと思います。
- 目標が概ね達成できているのは素晴らしいと思います。熊商デパートで御校を訪ねたとき、生徒各位の明るい元気のいい挨拶を受けたことが今でも思い出されます。
- コロナ禍におけるWeb活用法などにおいて拠点校としての役割を果たされたという点について、まさにこれからの時代に必要とされるスキルが学べる学校という貴校の強みを改めて感じました。

【学力向上】

- 時間を意識し自己管理できる資産を培うことが、大きな意味での学力向上のベースとなるということにとっても共感しました。また生徒による授業評価は中学校でも取り組んで見たい実践です。
- 資格取得には、スケジュール管理が重要なため、就業後の業務管理にも役立つと思います。沢山の項目にチャレンジできる環境整備をお願いします。
- 学期に1回以上の研究授業体制の整備には、先生方の熱意を感じます。オンラインの活用も今後増えてくると思います。生徒達の意欲がでるような工夫も必要だと思います。
- 授業をとっても大切にされていることがわかります。高校で研究授業を設定され、教師間で学び合う体制がとられていることに感激しました。実に素晴らしい取組だと思います。
- 各種資格の取得等、校外にも周知されており評価します。
- 今後もコロナの影響を受けながらの授業が続くと思います。課外を含めタブレットの活用で効率よい学習になればと思います。
- 積極的に取り組まれていると評価いたします。
- ICTが社会の中に入り、教育のなかにも入っている中で、先生方も大変な苦労だとお察し致します。そのなかで先生方が連携を取り合って生徒さんの学力向上に努めていることを成果から読み取ることができました。
- 授業内容の充実のところで、研究授業や公開授業、各種研修など先生方のご努力が垣間見え、頭の下がる思いです。時代に合ったツールを取り入れながら生徒に「伝わる」授業をつくることは本当に大変だと思います。そして先生方の業務負担の軽減と質の向上という二軸を実現する難しさもあると思います。

【キャリア教育】

- キャリア教育の推進は中学校においても大切な課題です。商業高校としての貴校の取組や課題が、中学校にも貴重な示唆を与えて頂けると感じます。
- 生徒の学ぶ意欲向上には、指導する先生方の学び(自己啓発)を見せるのも効果的だと感じます。生涯勉強と言うと嫌がりますが、何の分野でも楽しく学んでいる姿には、魅力を感じるものです。
- 生徒一人ひとりに丁寧な対応をされていると思います。進学、就職共にすばらしい結果に繋がっていると思います。
- しっかりとした理念と具体的な対応(プログラム、指導等)によって成果がみられていると感じました。高校で学んだことをペースに更なるキャリアアップを求めていってもらいたいと思います。
- 就職内定率100%や進学希望者の目標達成9割など、すばらしい実績だと思います。
- 評価がすべて「A」なので先生方の努力が功を奏していることだと感服いたしました。
- 進路指導につきましては、本当に丁寧な対応をいただいていると思います。学校生活と社会生活の違い、理想と現実にはギャップがあることを理解したり、進学先で何がやりたいのかキャリアを明確にさせること等、家庭との協力も必要だと思います。
- 「今の学びがどう生涯の中で生きるのか」を意識したり、活動の意味や理由を伝えたりなどというお取り組み姿勢がとても素晴らしいと思います。自分の人生を自律的に計画し進めていく力は現代社会の今後の社会の中に最も重要な事だと思います。

【生徒指導】

- 社会の価値観の変化や中学校での校則見直しの動きなど、これまでの生徒指導のあり方が問われている渦中の中学校としては、貴校の取組を見て、高校生活やその後の社会人としての在り様を考えながら一人一人の生徒と関わっていかねばならないと改めて感じました。
- 思春期の生徒指導は、腫れ物に触る感覚もあり、デリケートなものだと思います。内面的な指導には、挨拶運動の推進も絡めて、ぜひ商人肌の器量を育ててください。
- 交通安全と携帯電話のマナー・モラルが大きな課題だと思います。どちらも生徒達には不可欠なものなので、道徳心の育成が大事だと思います。
- 社会人として時間を守るということは基本中の基本だと思います。遅刻をこれだけ大幅に削減、ほぼゼロになさっている取組は実に素晴らしい成果だと思います。義務教育期において、しっかりと身につけさせたいと改めて感じました。
- ここ数年、講話を担当させていただいているが、生徒さんたちに対する好印象を持っている。生徒指導のたまものだと思います。
- スマートフォン等の取り扱い、大人でも手に余るものですが、子どもたちは、使いこなせていると思いついていて、この問題も学校だけでなく、家庭を巻き込んで考え考えるべきだと思います。人との接点がSNSやメール等に頼り過ぎて、言葉の持つ力や顔を見ずに会話していることのリスクに気づける教育も必要になっていると感じました。
- マナー・モラル教育は難しい課題ではありますが、生徒に対して積極的な取り組みをされていると評価いたします。
- 多感な年頃の生徒さん方の外面はもとより内面の指導は先生方にかかなりの負担がかかっているだろうと思います。先生の心のケアさえ必要だとも思われます。成果と課題を拝読して、生徒さんに寄り添った指導の難しさを改めて痛感いたしました。
- 生徒の多様な個性や考えを「伸ばす」生徒指導であり、大人の考える常識や型にはめるものにならないことを願っています。

【人権教育の推進】

- コロナ禍の今は、人の持つネガティブな感情がより表面化しています。中学校でも様々な事例を捉えてしっかりと生徒と向き合い、温かい心を育てていく貴重な機会だと思っています。
- 生徒の啓発だけでなく、先生方の研修も充実させておられると思いました。
- 知識やある価値観の押しつけではなく、自分自身の課題を明らかにするような取組が、今後更に求められるのではないかと思います。そのため、一つの方法として、少人数のディスカッションやディベートなどといった方法は、効果があるのではないかと思います。
- 今後の社会を担う人達への教育なので、先生方の今後の働きに期待します。
- メディア等でも取り上げられる人権についての情報が増えた分、今の子どもたちは昔に比べてボーダレスな部分もあると思います。その人権の意味を理解できるように、会話を増やしていただければと思います。
- コロナ禍における人権教育 感染者(濃厚接触者)家族に対し偏見や差別を行わない。この偏見や差別により体調不良等を訴えづら状況が生まれ、感染拡大につながりかねないと思います。
- これも内面にかかわることなので指導の難しさを痛感いたします。そのなかでよくやってらっしゃると思います。
- 熊商デパートの研修について先生と打合せ等させていただいた中で、「多様化する社会の中で新たな接客のあり方」という課題をいただいたことが、個人的ですが印象に残っています。そのような視点を持つ大切さが生徒様にも伝わってれば良いなあと思います。

【いじめの防止等】

- いじめの防止は、中学校においてもとても重要でまた難しい課題です。本校でもいじめが原因となって不登校状況となった事例もあります。何よりも、「いじめは全体に許されない」ということを学校全体で様々な機会を捉えて何度も何度も繰り返し学び合うことに取り組んでいきたいと思っています。
- 一人ひとりの「取り得」に気づき、個人を尊重できる関係になることが一番です。大人は、それぞれの仕事を持ち、他に真似の出来ない個性で働いています。個性が商人肌を育てようのでしょうか。
- いじめはなかなか表に出てこないもので、発見は本当に難しいと思います。家庭との連携が不可欠ですが、HPで様々な発信を工夫され、保護者の方も受け止めておられ、この信頼関係が大事だと思います。
- いじめの早期発見についての対応が実に素晴らしいと思いました。また生徒自身が主体的に取り組む計画も、参考になりました。現在、SNSなどについての学校の対応が義務教育期においても課題となっております。
- 授業や部活動等多忙な中で、いじめの予兆を見逃さない取組を進めていただき、感謝しております。命の大切さをわかっていけばいじめは起きないという方もおりますが、深く考えずに言葉や行動で傷つけている事例も多く、だからこそ気付かせるための対応が第一なのだと思います。生徒回答の活動を続けて欲しいと思います。
- 最も難しい課題ではありますが、新型コロナウイルス対策もあって具体的に出来ることはやられていると評価いたします。
- いじめは恐喝、暴行、傷害など立派な犯罪。改めて、このことを認識した上で、警察の介入(被害者)を視野に入れてもらえたらと思います。
- いじめを早期に発見することはなかなか難しいと思います。ましてやコロナ禍で先生と生徒さんのコミュニケーションをとるのが難しい現状があると思います。今後も丁寧に指導をされていくことを期待いたします。
- 新型コロナウイルスの影響で、生徒同士のコミュニケーションのあり方も変化があり、状況の把握やケアがとても難しい状況かとお察しします。高校生徒はいえ、家庭や保護者の方との連携・情報共有による早期の発見・ケアを大切に思います。

【地域連携】

- コロナの感染予防・感染拡大防止の状況の中での地域連携の取組はなかなか難しかったことだと推察します。中学校も、地域との連携に関わる取組は、ほとんどできませんでした。
- 災害時は、砂取校区8町内と連携をして頂くこととなります。今後、避難所担当職員を中心に連携を取っていきたいと考えています。
- コロナ禍でなかなか連携活動が困難だったと思いますが、そのようななかで工夫されながら取り組んでおられ、素晴らしいと思います。
- 地域との連携をこのように計画されていることに大変感心しています。特に防災や商店街の活性化など、現代の地域の課題にぴったりであると思います。
- 今年度においてもコロナ禍で様々な行事等が実施できなかった状況かと思えます。そのような中でも課題を見つけ、その課題に対して取り組まれているみたいですので、コロナもまだ先が見えませんが、今後とも創意工夫しながら災害に対する取組を継続していただき、災害に強い学校を目指していただければと思います。
- 幼稚園実習について、進学や将来について考える最も良き時期と考えるので、今後も続けていきたい。
- コロナ禍でコミュニケーションが難しい中、できることをやっていたいただいていると思います。特に防災は地域の方々との交流が大きなカギになりますので、制限があるとは思いますが、今後も取組をお願いしたいです。
- 防災教育 コロナ禍で全体的な訓練等実施が困難なため、動画や情報機器を活用した訓練の実施など、今までとは異なる訓練方法(内容)の検討が必要だと思えます。
- 教師も生徒も「他人任せでなく、一人一人が責任を持って対応する」ことが大事だと思います。
- これもコロナ禍で阻まれた感じがします。地域の方も学校との連携を待っていると思いますので、早くコロナ禍が終息し、地域連携が図れることを祈念いたします。
- コロナ禍において、活動が難しい面も多くお有りになったことと思えますが、その中でも多くの事に取り組まれており、地域を大切にされていることを感じます。

【商業教育の充実】

- これからの商業教育のあり方が大きく変化していくように思います。この変化に対応できる教育のあり方を工夫しておられると思います。
- 対ひと、コミュニケーション能力は、大きな武器です。学校評価にあるとおり、人間関係能力、社会性、倫理観の育成の取り組まれてください。
- 全国に名だたる熊商の伝統と誇りを感じることができます。「熊商デパート」へお招きいただき、とても参加したいと思っていましたが、状況を考慮して今回は遠慮致しました。来年度はぜひ参加できる状況であることを願っています。
- 専門的知識・技術だけでなくそれらを実践的な場面で活用できるような場の設定の工夫が実によくできていると思いました。特に熊商デパートなどは、一つの典型的な事例と言えます。これからは、総合的な人間力・資質の向上が求められると改めて実感しました。
- 熊商デパートをはじめとして地域に根ざした実践的な教育が行われていると思います。
- 熊商デパートをコロナ禍で開催できたことは、本当に良かったと思います。生徒全員が世の中の流れを感じることができ、時代に合った商業を体験できたと思います。今は利益重視だけでなく、企業価値は様々な面で求められていますので、ESG、SDGsが商業に与える影響も学べるというのではないのでしょうか。
- 熊商デパートには参加致しました。生徒さんの笑顔、大きな声で澆刺していたし、生徒さんが一丸となっている感じを目の当たりにしたような気がいたしました。
- 先の読めない時代の中で、プロフェッショナルな領域を持つスペシャリスト人材となることはとても大事なことだと思います。生徒のみなさんが商業のプロとしての学を深め、業界の担う存在になられることを期待しています。

【その他】

- 今年度は学校評議員として一度も熊商に伺うことが出来ず、申し訳なく、またとても残念な気持ちでいます。来年度はコロナ禍が穏やかになりますことを願っています。
- 熊商デパートにお邪魔させていただきました。生徒さんたちの対応が素晴らしく、お客の立場に立った対応ができていて素晴らしいと感じました。
- 来年度もよろしく願います。
- 比べてはいけなないのですが、私が高校生だった頃は(すでに40年以上前のことですが)受け身の教育だったと痛感いたしました。今の授業は能動的で、生徒さんも教える先生方も大変だと思います。将来の日本を、そして熊本を背負っていく人材が人財となるよう、私は何のお役にも立ちませんが、見守って行きたいと思えます。

5 総合評価

【学校経営】

学校の教育目標およびスローガンに基づく各部の取組みについて、教育目標達成に向けて計画的・組織的に実践しているという評価をいただいた。生徒、保護者のアンケートにおいても「よく実践されている」という回答をともに9割以上得た。ICT機器を活用し、業務の効率化を図ることで、生徒と向き合う時間を確保し、きめ細かな指導に繋げる必要がある。

【学力向上】

タブレットやFORMSを活用した家庭学習時間を確保する取り組み、黙学による主体的に学ぶための意欲を高める取り組み、学期に1回の研究授業・公開授業への取り組み、FORMSを活用した生徒による授業評価とその後の担当職員の工夫・改善が、学力の充実・授業内容の充実を図る取り組みとして評価をいただいた。本校におけるタブレットを活用した実践事例を教職員で共有し、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を確立する必要がある。

【キャリア教育】

キャリア教育に対するしっかりとした理念と具体的なプログラム(高大・高専連携への取組等)による、生徒一人ひとりに対する丁寧な対応が素晴らしい成果に繋がっていると評価をいただいた。本校におけるキャリア教育をさらに充実・発展させるために、実社会や実生活と接続し、自己と関連付けられた課題が発見できる「総合的な探究の時間」を構築する必要がある。

【生徒指導】

校門一礼や規範意識を高めるための様々な開発的生徒指導への取り組み、不登校や問題行動の兆候を見逃さず初期段階で生徒指導部、学年部、教育相談部が連携して取り組む予防的生徒指導が、熊商生としての自覚を持たせ、意識の高揚に繋がっているという評価をいただいた。特性を持つ多様な生徒が入学してきており、SCやSSWなど適切な関係機関と連携した、個に焦点を当てた問題解決的生徒指導に対してさらに力を入れる必要がある。

【地域連携】

コロナ禍で地域連携の取組みに制約がある中、熊商デパートにおける協賛事業所との連携、地域商店街の活性化への取組みなど、地域とともにある学校づくりが評価をいただいた。また避難所協力における熊本市と連携した取組み(マニュアル作成、それに伴うルール作り)からさらに踏み込んで、地域(砂取校区8町内)と連携した災害に強い学校づくりを目指す必要がある。

【商業教育の充実】

全商三種目1級取得や簿記・情報分野における高度資格取得の達成など専門的知識や技能の習得だけでなく、それを活用できる様々な実践的な場面の設定(熊商デパート・高大連携プログラム・クラウドファンディングへの取組・ベンチャーマーケットへの取組)が工夫されている点を評価していただいた。GIGAスクール構想に対応するため、ICT機器の利活用に対する教職員のスキルアップが急務である。

6 次年度への課題・改善方策

【学校経営】

○学校経営方針である生徒を「伸ばす」教育活動の実践を推進するために、生徒の学習面・生活面・進路面を現状分析することで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通認識をさらに深める必要がある。
○業務の効率化を図ることは、先生方が生徒と向き合う時間を確保することに繋がるという指摘があった。衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導に繋げるなど勤務時間の削減をできるように工夫したが、大会直前の勤務時間の改善に課題が残った。校務分掌を見直すなど負担軽減を図りながら、働き方改革につながる業務改善を実施する。

【学力向上】

○主体的・対話的で深い学びの視点から、ICT機器を活用したデータ駆動型の教育へと転換が迫られている。職員研修を通して一人ひとりがスキルアップし、授業内容の充実を図る必要がある。
○部活動と学習との両立を図るため、短時間でも学習に取り組めるようにタブレット等を活用したオンライン学習を推進する。
○分散登校や休校期間中の「学びの保障」への取組に課題がある。10月にGIGAスクール構想に対応するICT機器が整備されたが、その活用に対する格差は大きい。オンラインによる指導の充実を図るとともに、同時双方向型のオンライン指導に対応する必要がある。

【キャリア教育】

○生徒の主体的・自発的な学びにつながるように、来年度より総合的な探求の時間を導入する。熊商デパートと関連づけるとともにキャリア教育の視点を取り入れながら実施する。生徒一人ひとりが課題意識をもち、主体的な学びと将来の展望が具体的にできるよう工夫した取組を行う。
○本校において3年間系統的・計画的な進路指導が実践できている。特に発達段階に応じた集団進路指導や進路先別の丁寧な指導が効果的であった。生徒一人ひとりの進路実現を支援するために、職員の面談力を高めることでさらに充実させ、主体的な学びに繋げる。

【生徒指導】

外面的・内面的生徒指導の取組は、熊商生として自覚をもった行動に繋がっている。しかし、SNSの活用、情報モラル、交通モラルについて一部の生徒に課題がある。全職員による時期を見た指導に加え、問題行動の早期把握に努め、学年、教育相談部、外部機関とのより一層の連携を図る必要がある。「命を大切に作る心」を育む指導プログラムへの取組を通して、安心・安全、健康・命を守る教育をより推進する。

【地域連携】

○コロナ禍で取組みに制約があるが、STEAM教育の学習要素を取り入れた熊商デパート協賛事業所との連携など、地域とともにある学校づくりを継続して推進する。
○避難所運営について本校独自のマニュアルを作成し、熊本市と連携した取組を実施している。今後は、地域代表者(砂取校区8町内)にも参加していただき、マニュアルの情報共有と役割分担を確認するなど連携強化を図りたい。

【商業教育の充実】

○STEAM教育の学習要素を取り入れ、デザイン思考で「コロナ禍における熊商デパート」を再構築した。しかし、開催規模や実施内容については、コロナウイルス感染症のリスクレベルに左右される。課題研究において、熊商デパートWebスタジオやデジタルサイネージの活用、電子決済の導入について研究を進め、新しい販売実習方法について検討する。
○スキルアップを図る研修や研究授業への取組みは、一定の成果を上げている。今後は、GIGAスクール構想に対応する同時双方向型のオンライン指導ができるように推進する。また商業教育の拠点校として、本県商業教育が活性化できるよう引き続き役割を果たす。